

「メディアと上手に付き合うために」

～ HSP 南海トラフ大地震を生き残るための情報源はどれだ！？ ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 読む能力 (学校) 表現力

- 1 日時 令和2年9月17日 13:00～13:50
- 2 学年 第2学年2組 (男子16名 女子15名 合計31名)
- 3 場所 新館3F 2年2組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領(平成20年)の第2学年「C 読むこと」の指導事項「オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること」を受けて、本や文章などから情報を得て考え、更にはそれを書き表す力を育てることをねらいとして設定する。

本や文章などから情報を得て考える力とは、情報を得るための様々な媒体の特徴を知り、それを生かした情報収集を行う力や、得た情報をどのように引用すればいいか考える力のことである。情報化社会となっている昨今、適切に情報を選び、それらを整理する中で自分の考えをまとめる能力は、多くの場面で求められる。

本単元では、テレビの情報伝達を例にして、様々なメディアの特徴が具体例と共にわかりやすく解説されている。また、メディアが伝える情報を有効に生かすためには、メディアの特徴を知る必要があるという筆者の考えが述べられている。生徒たちはこれから、多くのメディアによって情報活用を行わなければならない。そのため生徒は本教材を通して、メディアの特徴を考え、状況によって適切な方法を選び、情報を得て考えをまとめる能力を身に付けることができると考える。

○ 生徒観

本学級の生徒は国語の授業に意欲的に取り組み、聞かれたことに対して発表するだけでなく、分からない点があれば全員で共有しようとしたり、意見を尊重したりするなど、互いを認め合う雰囲気が感じられる。また、令和2年度標準学力調査中学校2年国語における「伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くこと」に関する設問の全国正答率は54.0%である。これに対して校内正答率が69.8%であるなか、本学級の正答率は60.7%と低くなっている。また約三割の生徒が準正答にも及んでおらず、無解答の生徒の割合も一割を超えている。自分の考えを明確にするためには、自らの考えの根拠を自身の中に持つ必要があるが、受けた物事を深く考えるまでには至っていない部分がある。

○ 指導観

指導に当たっては、様々なメディアを比較して特徴を知り、実生活の場面や有事の際に生かす能力を身に付けることを目的として、ねらいを「様々なメディアを比較し、長所と短所を分析して、適切なメディアを選択することができる」と設定した。課題を示した後、テレビ・新聞・インターネットから得られる情報を比較することで、各メディアの特徴をとらえさせる。また示す情報も、本年2月末に報道された「新型コロナウイルスのための一斉休校」を扱うことで、生徒は身近な話題として当時のことを振り返ることが可能であると考えられる。

その後、生徒を学習班に分け、メディアの特徴を踏まえた上で、生徒たちのこれからの生活に関係

した内容である「南海トラフ大地震が発生した際にどのメディアを用いるか」をミニホワイトボードに協力してまとめさせる。その後、まとめたものを発表し、互いの発表を聞き合うことで、改めて自分の考えを深めて自らの考えに根拠を持ち、それを文章で書き表すことができるようにさせたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- メディアとの付き合い方について関心を高める。(国語への興味・関心・意欲・態度)
- メディアの特徴を理解し、どのように活用するべきか考え、筆者の意見を踏まえて自分の考えを書き表すことができる。(読むこと)
- メディアという言葉の意味や、それぞれ文章の形態や展開に違いがあることを理解できる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

7 評価規準

国語への興味・関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項
・メディアの特徴に興味をもち、付き合い方について考えを深めたり、情報を集めたりしている。	・本文を読み、書かれているメディアの特徴を理解することができる。 ・理解したメディアの特徴をもとに、活用の仕方や注意点について自分の考えを書き表すことができる。	・メディアという言葉の意味や、形態の違い理解することができる。

8 指導計画（全2時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点					評 価	
			関意	話聞	書	読	伝国	評価規準	資質・能力（評価方法）
・課題の設 ・情報収集	1	・本文を読み、メディアという語の意味や、それに対する筆者の考えを読み取る。（1時間）	○			○	○	・メディアという言葉の意味や、形態の違いを理解することができる。 ・筆者が述べるメディアの特徴や、その扱いの注意点について理解することができる。	
単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 南海トラフ大地震が起こったとき、的確に情報を収集するためにはどうすればいいだろう。									
整理・分析・まとめ・振り返り・表現	2	・具体例をもとにメディアの特徴を整理する。 ・状況を踏まえ、用いるメディアを適切に選択し、その理由を自分の言葉で書き表す。 （本時・1時間）				◎		・具体例をもとに、筆者の意見を踏まえてメディアの情報を比較・整理することで、その特徴を理解することができる。 ・特徴を理解して状況に相応しいメディアを選択し、その理由を自分の言葉で書き表すことができる。	【表現力】 （ワークシート）
単元を貫く問いの終結 情報収集の媒体であるメディアにはそれぞれ特徴がある。インターネットは情報が出回るのが早く、私たちにとって身近な情報収集の手段であるが、嘘の情報も多く、情報が玉石混交である。テレビは生放送などの同時性があり、情報を早く正確に知るには優れたメディアである。新聞は情報量こそ多いものの、印刷という手間が加わるため、詳しく情報を得るには良いが、即座に情報を求める際には手段として有効ではない。地震が起こった際は、どれか一つに絞って使う必要はなく、自分がその時に相応しいメディアを、その特徴を踏まえて用いることが大切である。									

9 本時の展開

（1）本時の目標

○様々なメディアを比較し、長所と短所を分析して、適切なメディアを選択することができる。

（2）本時の評価規準

○具体例をもとに、筆者の意見を踏まえてメディアの情報を比較・整理することができる。

○特徴を理解して状況に相応しいメディアを選択し、その理由を自分の言葉で書き表すことができる。

（3）準備物

○同一ニュースの新聞記事・ネット記事・ニュース映像等、ワークシート、ホワイトボード、テレビ、パソコン

(4) 学習の流れ (2時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。[2分]		
1-1 課題の設定 ・今までのHSPを振り返る。 これから南海トラフで生き残るためにどうすべきかを問う。	◇「南海トラフで生き残る」ためにどうすればいいのかを考えさせる。	
2 本時のねらいを確認する。[1分]		
ねらい 様々なメディアを比較し、長所と短所を分析して、適切なメディアを選択し、自分の言葉で書き表すことができる。		
3 情報を整理・分析する。[12分]		
・コロナでの一斉休校を扱った ①ニュースの映像 ②新聞記事 ③インターネットの記事 を生徒に紹介する。 1-2 個人活動 ・各自で①～③を比較させ、それぞれの特徴をワークシートに記入させる。 ・個人で考えたメディアの特徴を班で簡単に確認する。 ・班で確認したメディアの特徴を全体で確認する。	◇長所も短所もどちらも書くことを確認する。 ◆書けない生徒には、前時に扱った本文の内容を確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 生徒の発表例 <テレビ>いち早くニュースを知ることができる・中継など同時性がある・編集されている <新聞> 印刷までに時間がかかる・情報量が多い・一覧性がある・保存しておける <インターネット>誰でも発信できる・すぐに調べられる・誤った情報がある </div>	・メディアの情報を比較・整理することで、その特徴を理解することができる。〔読むこと〕(ワークシート)
本時の学習課題を設定し、課題解決をする。[15分]		
学習課題 どんなメディアを使えば、南海トラフ大地震を生き残ることができるだろう。		
2 グループ活動(4～5人) ・各班で「南海トラフ大地震の発生時に使用することが一番ふさわしいメディア」を考え、理由と共にホワイトボードにまとめる。	◇余裕があれば、他のメディアを用いない理由も記入させる。	

導入の工夫

単元を貫く問い

思考を深める学び合い

5 課題解決について発表をする。[10分]			
3 グループでの発表（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・班でまとめた意見を全体に向けて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇今回意見に出ないであろう新聞について、どのような場面に活用できるかや、その特徴を改めて確認させる。 	
4 全体での交流	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を元にメディアの特徴を再確認する。 		
6 学習のまとめをする。[5分]			
5 まとめ・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震が起こった際に、どんな場面でどのメディアを選択するか、自分の考えをワークシートに記入する。 	<p>A評価 私は南海トラフ大地震が起こった時にインターネットを使います。色んな場所の被害状況がすぐ確認できるし、移動しながらでも扱えるからです。ただし、嘘の情報もあるかもしれないため、その情報を受け取るときは慎重に考える必要があると思います。</p> <p>B評価 私は南海トラフ大地震が起こった時にインターネットを使います。すぐに状況がわかって便利だからです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴を理解して状況に相応しいメディアを選択し、その理由を自分の言葉で書き表すことができる。[読むこと] ★表現力 (ワークシート)
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]			
○振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアにはそれぞれ特徴があるが、地震発生の際には情報をすばやく得ることが重要であり、その際にはインターネットやテレビなどのメディアが有効であることがわかった。 ・メディアには特徴があり、その状況に応じて選択するものを考える必要があることがわかった。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	南海トラフ大地震が起こった状況を想定し、前時および本時に確認したメディアの特徴を踏まえて、具体的な理由を挙げて状況に相応しいメディアを選択することができる。
B（合格）	南海トラフ大地震が起こった状況を想定し、本時に確認したメディアの特徴を踏まえて理由を挙げ、状況に相応しいメディアを選択することができる。
C（乗り越えさせたい実態）	南海トラフ大地震が起こった状況において、どのメディアを用いることが適切であるかを考えたり、選択したりすることができない。

(5) 板書計画

単元名	メディアと上手に付き合うために		
ねらい	長所と短所を分析して		
学習課題	適切なメディアを選択することができる。 どんなメディアを使えば、南海トラフ大地震を生き残ることができるだろう。		
まとめ	生き残るためのメディア インターネット 移動しながら使え、状況がすぐに確認できるが、信頼できる情報かどうかには注意する必要がある。		